

	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能／思考・判断・表現】 ○文法的な問題についての正答率は9～8割という状況だが、いわゆる語彙力と呼ばれる分野の問題や、その力を軸とした読み取り問題や思考力を問う問題の正答率は5割～4割5分であり、課題が見られる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○生徒質問より、「先生からあなたのよいところや以前よりできるようになったところがどこか伝えられる」や「うまくできていないところはどこか、どうやったらうまくできているかを教えられているか」という質問の肯定的な回答の割合が低かった。教師の生徒に対するフィードバックに課題が見られた。	【知識・技能／思考・判断・表現】 ○言語活動の充実として、基本的な語彙の学習の時間を授業の帯として短時間確保する。国語便覧や ICT を活用・選択させ、個別最適な学びを目指す。また、授業内外において、読書活動の充実を図る。語彙力の向上は一朝一夕には難しいが、粘り強く行っていく。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○教師のフィードバック(形成的評価)については、授業の振り返り時間を十分に確保し、声かけする。プリントなども評価だけでなく、改善のポイントなどをなるべく明記して伝え、生徒が自身の課題を明確に把握できるように努める。
社会	【思考・判断・表現】 ○自分の言葉で表現することや、学習内容を結び付けて価値を見出すことが苦手である。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○生徒アンケートの「授業の中で学んだことや興味をもったことについて、自ら学びを進めることができた」の項目について、否定的な回答が全学年1割程度であり、他の項目に比べ「十分にできた」の回答の割合が低い。	【思考・判断・表現】 ○自分の言葉で表現する際にポイントやキーワードを示したり、身近な話題を取り入れて学習内容と関連付けたりして価値を見出すことができるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○授業の中で学習課題を自己決定し、課題に対する自分なりの答えを導き出す活動を通して、主体的に学習に取り組めるようにしていく。また、探究的な課題の際には、学習方法や教材を生徒自身が選択し、他者と協働しながら学習を進めることで、理解が深まるように指導していく。
数学	【知識・技能】 ○問題場面における考察の対象を明確に捉えることや、具体的な事象をもとに、証明する事柄の過程を見いだすことに課題がある。「D データの活用」の分野では、用語を正しく理解することが十分ではない。 【思考・判断・表現】 ○「C 関数」の分野では、数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。また、「D データの活用」の分野では、データの傾向を的確に捉え、データの特徴を基に説明することに課題がある。	【知識・技能】 ○問題の条件を図や表などを用いて整理し、考察の対象を明確化する指導を行う。証明では、具体的試行から一般化を図る過程を重視し、証明の見通しを立てる活動を取り入れる。「D データの活用」の分野では、身近なデータを用いた活動の中で、繰り返し用語を使用することで、用語の意味と活用場面を結び付けて理解を深めさせる。 【思考・判断・表現】 ○「C 関数」の分野では、式やグラフから読み取れることを事象の言葉に置き換えたり、求めた結果が事象として妥当であるかを考察したりする場面を設定する。「D データの活用」の分野では、複数のデータを比較し、代表値や散らばりの程度などの根拠を明確にしながらデータを分析する活動を行う。また、自分の考えを他者に説明し、相互に評価し合う活動を取り入れることで、数学的な表現を用いて筋道を立てて説明する力を育成する。

理科	【知識・技能】 ○定期考査の結果から知識や技能の定着状況に大きな差が見られる。難易度をやさしくした場合、結果が二極化することが多いので、達成度が低い生徒には基本の定着への取り組みが必要にある。 【思考・判断・表現】 ○教科書に書かれている実験や観察はスムーズに行えるが、実験内容を考えたり、立案したりする力が弱く、考察などを書く力も十分ではない。定期考査の記述する問題では苦手意識を持っている生徒が多く、計算問題などは定着状況に大きな差が見られる。	【知識・技能】 ○定期的に単元テストを実施し、生徒の達成度の把握に努め、授業内容に反映させる。学習の記録をタブレットで管理する。知識・技能を定着するために、身のまわりで知識を活用している事例を考えさせる授業を行う。 【思考・判断・表現】 ○実験前にその目的や手順を確認し、実験中注目すべきポイントを分かった上で実験させる。考察すべきことを曖昧にするのではなく、具体的に、また焦点化することで苦手な生徒も書くことができるようにする。また、思考につながる段階的な情報の提示などを工夫する。計算問題など、作図トレーニングなど基本的な取り組みを繰り返し行い、問題に慣れるところから始める。
音楽	【知識・技能】 ○発声法や身体の使い方等の基礎的な歌唱技能は多くの生徒が実践できている一方で、同じパートの仲間や違うパートの仲間と歌声を合わせて歌唱する技能は定着状況に差が見られる。 【思考・判断・表現】 ○定期考査やワークシート、授業の様子より、音楽表現や言語活動について、音楽的な諸要素や曲想、音楽の構造・背景などを結び付けて創意工夫することが苦手な生徒が見受けられる。	【知識・技能】 ○合唱の単元における「ハミング」の活用から、歌声の響きを整えられるよう指導を行う。また常時活動における身体の使い方ストレッチ、および発声練習では、自他の歌声が溶け合うような意識づけ・声かけを継続する。 【思考・判断・表現】 ○振り返りや意見交流等の言語活動を通した「知覚・感受」の可視化・往還により、生徒の内的聴覚の育成や音楽的な見方・考え方の深化を狙う。また既習事項と学習内容（ノード）をリンクさせ学習の転移を図ることで、より高次の見方・考え方を発揮できるよう対話を深めていく。
美術	【知識・技能】 ○授業中の様子から半数以上の生徒が道具の基礎的・基本的な技能が身に付いていない。 【思考・判断・表現】 ○自分の作りたい作品のイメージを形にすることが苦手な生徒が多々見受けられる。	【知識・技能】 ○タブレットを用いて道具の使い方、技法を伝える。作品を拡大し、作者の細かなタッチを読み取れるようにする。 【思考・判断・表現】 ○動機付けに重点を置く。学年で優秀作品を参考作品として掲示しイメージの具現化の事例を紹介する。
保健体育	【思考・判断・表現】 ○生徒一人一人が課題意識をもって取り組むことができているが、課題解決に向けた具体的な考えや行動をとることができる生徒は少ない。課題に取り組む行動力の育成が課題である。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○何度も繰り返し練習をしたり、仲間と協力してグループ学習をしたりすることはほとんどの生徒ができるが、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整することに課題がある。	【思考・判断・表現】 ○どんな練習が課題解決に効果的かのヒントを多く提供し、それを選択する段階を取り入れることで、考えることが苦手な生徒も取り組みやすいようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○主体的に取り組んでいる好事例を提示し参考にできるようにすることで、活動量だけでなく、活動の質を高めさせる。また粘り強く取組を行おうとしている姿やその取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする姿を適正に評価し伝えるようにする。

技術・家庭	【知識・技能】 ○授業の様子や定期考査の結果から、基礎的・基本的な知識とそれらに係る技能の習得に課題が見られた。 【思考・判断・表現】 ○実習において自身の実生活と関連付けて問題を見だし、課題を設定し、解決するという一連の過程を自力で構想することに難しさが見られた。	【知識・技能】 ○本時の目標を明確にし、実物見本や視覚的資料を用いて確実に理解できるように教材の工夫を行う。 【思考・判断・表現】 ○課題解決の検討場面において、生徒がアイデアを整理したり複数の視点を得たりする補助として、グループでの話し合いの時間を設け、自分・他者の意見を比較しながら考えを深める。
外国語（英語）	【知識・技能】 ○全国学力・学習状況調査の結果、全体を通してみると全国や都の平均を上回っていたが、聞くことに関して音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる問題については若干都の平均を下回る結果となった。 【思考・判断・表現】 ○様々な言語活動に意欲的に取り組む生徒が多いこともあり、すべての技能において全国学力・学習状況調査の結果、全国や都の平均を上回っていた。	【知識・技能】 ○聞くことに関しては、単元の中で繰り返し音声を聞かせたり、音読させたりしながら、文字と音を一致させる指導を行う。 【思考・判断・表現】 ○引き続き単元の中で言語活動を行い、思考力、判断力、表現力を育成していく。また、言語活動を行う際には詳細な目的・場面・状況を設定し、生徒が思考、判断、表現できるように工夫する。